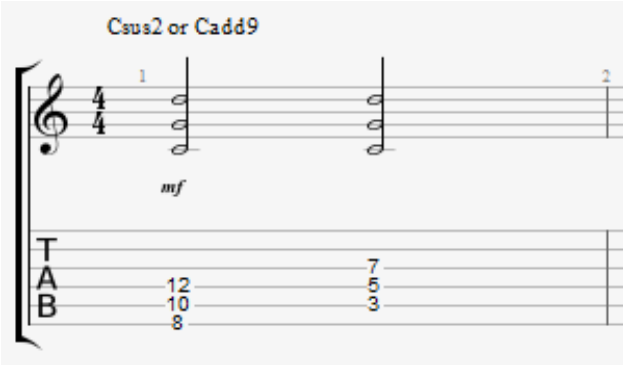
Vol.79　特殊 or 複雑なヴォイシングを弾いてみる　～その 3～

『10 分トレ』vol.79、始めていきましょう

今回は、特殊、と言うよりは、少し個性的なヴォイシングを見ていきましょうか。

題材はこちらです。

譜例 1、Csus2 or Cadd9



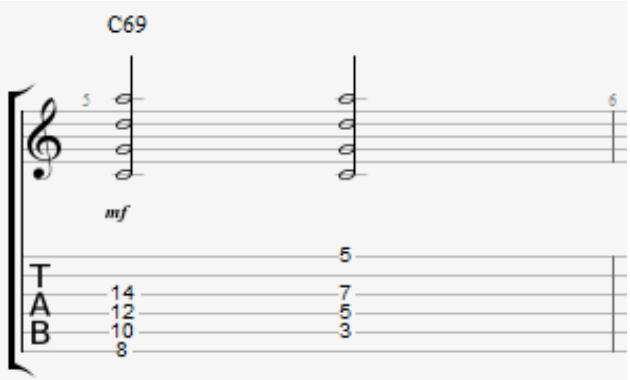
これは、普段、何となーくギターに触っている時などに、自然と弾いていたことがある人も多いのではないでしょうか。(僕はそうでした)

コードとしての状態を見てみると、root、P5th、♮9th となっていて、コードネームでも示した通り、Csus2 か Cadd9 的な状態ですね。(※3rd が入っていないので、Cm の上でも使えますが)

アイディアとしては、root から 5 度→さらにそこから 5 度と音を積んでいった形になります。

ギターではヴォイシングに限度がありますが、これをもう一つ進めると、この様な状態も作れます。

譜例 2、C69



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

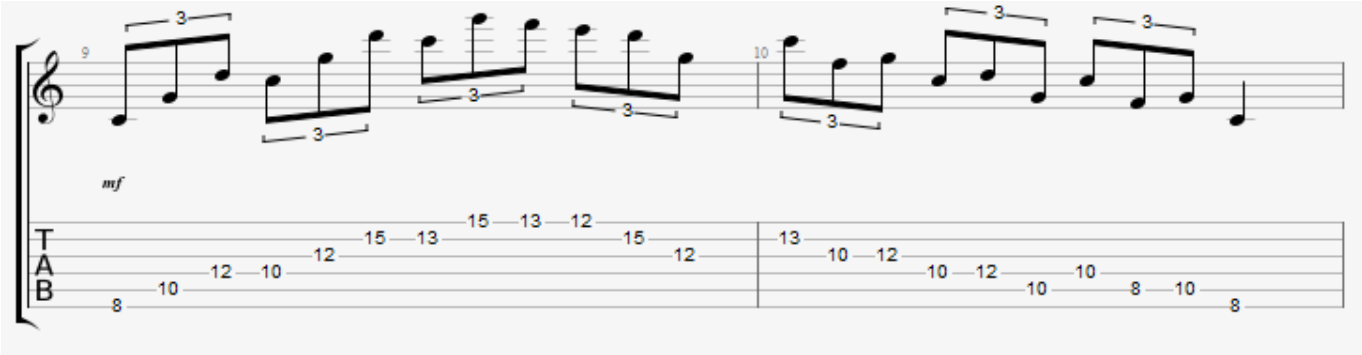
構成的には、譜例 1 のヴォイシングに 6 度(or13th)の音が加わっています。

6 弦ルートの方はストレッチがきついので、指が届かないならば無理に弾く必要はありません。5 弦ルートでは、最後の 6 度の音を 2 弦ではなく 1 弦に見てしまった方が楽ですね。

さて、このヴォイシングをこのまま弾くのもアリですが、ここにアイディアとして一ひねり入れて、フレーズを作ってみましょうか。

こんな感じです。

譜例 3



これは、先の譜例の「スタートの音から 5 度→さらに 5 度・・」と言う動きを元に、オクターブごとに繰り返してみたフレーズですね。(※ここでは C 音を基準にしています)

で、切り返しの部分で少し色を付けて、上昇と同じような音程幅で下降する、と。

こんな感じで、コード・ヴォイシングも単音のフレージングも、どちらの観点から見てももう一つの方向に活かせるようにしておくと、新しいアイディアが出てきますね。

普段から、面白いプレイを見つけたら、それを元に、新しいものを作ってみる癖をつけておくといいですね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved